

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援事業所 りんごの花		公表日		R8年3月31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・基準は適切に満たしているが、一度に10名が利用する場合や気持ちの切り替え、遊び方などに応じて、廊下や相談室を活用している。	・限られたスペースの中で、運動・感覚面への支援を行うにあたり、提供する活動や遊び、運動器具をさらに検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	・基本人2名、加配加算人員+日により専門支援体制加算人員を配置。5名前後の利用児に対し3~4名・10名の利用児に対し6~7名と、手厚い体制を整えている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	・スケジュール、自分の椅子・ロッカーは常時視覚化している。また活動の内容やお子様の発達に応じて視覚支援やパーティションの使用等の環境整備を行っている。	・お子様の発達に応じて、個々に合わせた支援をさらに検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	・環境改善が必要な場合は、共有し改善に繋げている。 ・机を片付ける等してスペースの確保を行ったり、遊びごとにコーナーを区切るなど、活動に合わせた空間を作りを都度検討、実施している。	・感覚面を考慮した環境設定やグッズの使用をさらに検討し、心地よく過ごせるよう整えていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・子ども希望で個室、廊下、パーティションを使用している。子どもの発達に応じて支援として、使用について子どもと話を決めて決めることもある。また、子どもの様子に応じて使用を提案することもある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	3	・時間の確保が難しいため、管理者と児発管で話したことを毎月の職員会議の議題にあげ、職員間で話すようにしている。	・勤務の都合上、参画ができていない職員がいることや十分な時間を確保できず、職員間の認識に多少のずれが生じているケースもあるため、実施方法を検討していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・開所して1年半ほどであるため、評価表による意向の把握、改善は今初となるが、保護者様から直接いただいたご意向については、都度検討し対応可能な範囲で改善に繋げている。	・市より、今年度はR8年2月に実施の第三者評価による保護者評価を実施するとで承諾をいただいているため、その評価内容を改善に繋げていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・振り返りや会議では話し合っている ・普段から話しやすく、拾ってもらいやすい環境だと感じる。自身もそう心がけている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	・開所して一年半ほどであるため、R8年2月に初めて外部評価を実施。その場で伝えられたことに付いてはすぐに対応できることは改善を済ませた。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	・月に1回、職員会議後等での研修を実施している。 ・市や職員から得た研修情報をもとに、希望者や適任者が参加している。平日の研修になると参加が難しいが研修内容の必要度を考慮し参加できるよう調整している。	・非常勤の職員も含め、職員の資質、療育の質を向上させるため、偏りなく研修の受講ができるよう計画を立てていく。また、研修に参加した職員のフィードバックが活かされる方法も検討していく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	「利用時の記録」と「支援計画」を照らし合わせて記入することで、適宜、支援計画の内容を確認し支援に繋げるよう取り組んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	・インテークの際にインフォーマルなアセスメント用紙を使用している。 ・利用時の記録に行動分析の視点を取り入れている。	・標準化されたフォーマルなアセスメントツールはないため、今後検討していく。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	・児発官を含め、職員間で内容やねらいを確認し、共通理解として進めている。	・各職員の意見を取り入れもに、軸がぶれない様、検討していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・ステップアップしながら継続したプログラムを取り入れる際は、子どもの関心、発達に応じて柔軟に検討するようにしている。	・個々の狙いだけでなく、集団としての良さを活かした活動プログラムを計画的に進めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	・集団活動と自由活動の時間を設定している。 ・集団療育とお子様の発達に応じて専門支援を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	・朝礼で支援内容等の確認を必ず行うことを決め実施している。	・出勤時間が遅い職員への周知が不十分があるため方法を検討していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	・毎日の実施が難しく、重要事項についてはその日に共有、療育内容についてはリーダーを中心に共有、朝の打ち合わせの時に前日や先週の同曜日の振り返りを含めて共有など、隙間時間を使い行うよう努めている。	・モニタリング、支援計画会議の件数が重なる月は毎日の実施が難しい。会議、振り返りの進め方を検討し、欠かさず実施できるよう検討していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0		
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	・状況に応じて、関係機関と連携を図れるよう努めている。	・西部療育センターとの連携の体制づくりは出来ているが、他機関との体制作りはまだ弱い点は課題であるため検討していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	・訪問支援を利用しているケースにおいては、訪問支援員を軸に情報共有を図り、共有をしている。 ・保護者様、通園先の依頼に合わせて、または、事業所からの申し出で情報共有を図るよう努めている。	・児童発達支援事業所の定例会などを通じてなど、他事業所を併用するお子様の情報共有を行えるよう方法を検討していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	・要望に応じて、電話、対面、書面で実施することとしている。 ・小学校への訪問支援の依頼を受け付けている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	0	・事業所に来所いただいたりのご指導、及び、西部療育センターに出向いての研修、情報共有を行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	・法人内に保育園があるため、仕事として交流する機会はある。 ・利用児の連携を目的に、通園先に出向くことや来所していただくことを行っている。	・福祉の分野での経験が長い職員が多く、保育所や幼稚園の環境、子どもの姿についてある程度理解しているが利用児が過ごす環境等をより正しく理解するため、可能な範囲で交流を行っていただければと思う。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・送迎の際やお電話、面談時にお伝えできるように努めている。	・送迎車を利用されるケースや保護者様のお仕事に忙しいケースでは、時間を設けることが難しい。また、足りていない面もあるため、方法を検討していく。

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	・毎月1回、土曜日に家族支援プログラムとして、勉強会や情報交換の機会を設けている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	毎月1回、土曜日に家族支援プログラムを実施し、勉強会や情報交換と合わせて、保護者様の交流の場を設けている。今年度は「お父様のみ交流会」「きょうだい児の交流会」も行った。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0		内容について不十分面があるため、検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・伝える情報量を整理する、文面で示すなど、考慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	・保育園、幼稚園等、地域施設からの見学受け入れを行っている。	・地域に開かれた事業運営という点で、事業所の運営的に実施の難しさを感じる。他事業所の取り組みを参考に必要に応じ検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		・家族への周知ができていない。今後HPで確認できるようにする
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		・訓練については、非常勤職員の参加が難しいケースがある。常勤職員がしっかり訓練を行い、指揮をとることで非常時に適切な対応ができるようにしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	・アレルギー、服薬、発作・痙攣、その他の病名・症状等についてはアセスメントシートを用いて確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・現在該当なし。対応するマニュアルは整備している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	・体調不良、怪我や事故が起きた際の対応については、利用のしおりに記載し説明をおこなっている。	・安全計画に基づく取組について家族への周知が不十分な点を改善していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・日々の記録ファイルに残し、各職員が閲覧できるようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2	・身体拘束がやむを得ず想定される場合、保護者への説明と記載を行うこととしている。 ・事業所内研修のなかで、どのようなケースが該当するかを話し合っている。	・全職員の認識がそろうよう、現場目線でのマニュアルを整備する。